

会 議 録 要 旨

会議名		令和2年度 第4回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時		2020年（令和2年）11月25日（水）午前9時56分～午前11時43分	
開催場所		藤沢商工会館ミナパーク502会議室	傍聴者数 0人
出席者	会長	杉渕 武	
	委員	井上 美鈴 齋藤 力良 重田 和恵 野牧 喜久江 深澤 潤子 宮治 八千代 三輪 晋 矢出 乃大	
	事務局	鈴木市長 鈴木下水道部長 [下水道総務課] 武井参事・指旗主幹・濱野主幹・林主幹・小川補佐・外山専任補佐 利根補佐・矢口上級主査・吉原主査・松田主任 [下水道管路課] 近藤課長・藤原補佐 [下水道施設課] 真間参事・中丸辻堂浄化センター長・一ノ瀬大清水浄化センター長 佐藤補佐	
議題及び公開・非公開の別	1 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について（公開）		
非公開の理由			
審議等の概要	<p>○前回審議会の質問について回答。 処理場監視システムの統一化の動向について、参考資料1に基づき説明。</p> <p>○前回審議会の質疑について訂正。 令和元年度決算における減価償却費の内訳について、前回の質疑では汚水処理費より雨水処理費の方が大きいと回答していたが、参考資料2の円グラフにおいて内訳を説明。正しくは、雨水処理費より汚水処理費の方が大きい。</p> <p>《議題》 1 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について 鈴木市長から藤沢市下水道運営審議会へ「今後の下水道事業における整備と運営のあり方について」諮問。 資料1～3に基づき説明。</p> <p>【質疑】 (1) 次のビジョンを考える中で、下水道施設の津波被害についても考えるべきだが、藤沢市で津波の影響があったなど過去の震災の歴史的なデータの把握をしているのか。</p> <p>《回答》 過去のデータについては今は把握していませんが、慶長型津波予測図からすると履歴はあると思われます。現在の最大の津波浸水予測である相模トラフ沿い地震による津波で処理場・ポンプ場の浸水被害予測は大きく、吐口の遠方監視などから段階的に対策を進めております。</p> <p>【意見】 実際に発災したときには、市民の自己防衛を行政が助ける形だと思います。インフラの中で一番最後に残るのは下水道であり、少しずつ市民の方も理解されてきているのでアナウンスメントが必要。 下水道だけで全ての対応はできないので、市民と行政全体で考えていくしかないと思う。</p>		

<p>審議等の概要</p>	<p>(2) 地域住民のニーズはどのように収集されたのか。また、事業者が考えるニーズと地域住民が考えるニーズについて、どのような判断をされているのか。</p> <p>《回答》 市の総合指針の施策・事業に関する市民の意識調査によると、地震・津波等の防水対策、施設の老朽化対応への満足度は低く更なる対応を望んでいる傾向があります。また、地区ごとにも違うニーズがあることから、市民のニーズとコスト、効果をどうとらえていくか整理し示してまいります。</p> <p>(3) 資料P10の表、1日当たりの下水の流入水量が合計18万立米で年間にするると6,600万立米となるが、P11では4,500万立米/年とある。差分は何か。</p> <p>《回答》 辻堂と大清水浄化センター以外に相模川流域下水道で処理をしている部分と、雨が地中に浸透したものが入っている部分が差分となります。 詳細は次回お示しします。</p> <p>【意見】 大きな災害があった時の下水の想定状況や、老朽化により大きな整備が必要だということを、一般市民の理解が得られるように。危機感を持ってもらい理解を得ることで料金の見直しに協力していただく流れがよいと思う。</p> <p>《回答》 下水は見えないため現状どうなっているのか市民の方々にわかりにくいいため、ビジョンの大きな視点として掲げていかなければならないと考えており、そういった点も踏まえた対応を考えていきます。</p> <p>(4) 下水道の本来の役割は水環境の保全と思うが、BOD、CODだけではなくもっときめ細やかな水質の改善も目指すことも大事なことだと思います。地球環境の保全、海洋汚染を減らすという意味から水環境の改善についてどのように考えているのか。</p> <p>《回答》 下水道の役割は3つあり、浸水の防除、水質改善、生活環境の改善が大きな観点です。そのひとつの水質改善は大事な問題で、BOD、CODという環境基準については経年的に基準をクリアしている状況に近くなっていますが、調整区域については基準をクリアできていないため、市域全体の川をきれいにしたいことが大前提としてあります。河川の流域でどのように水質を改善していくかという総合的な流域計画の中で、目指していく方針に応じていくことを考え、コストとの関係も検討したいと考えております。</p> <p>【意見】 放流水の水質について、合流式下水道の場合は雨が降った時に流れるので影響は大きくないと思うが加味したほうがよい。P3の合流改善という市民ニーズの優先順位が高いところに位置している。お金と時間がかかる問題があるが何らかの方針をつけやっていくことになると思う。</p> <p>《回答》 合流式改善は、平成16年から20年かけ取り組んでおり、令和5年度を目標に対策を行っています。次回以降に進捗状況、効果などをお示しさせていただきます。</p> <p>(5) 調整区域に対して公共下水道を設置しているのは全体のうちどのくらいか。将来、市街化区域にする前提なのか。</p> <p>《回答》 令和元年度末で約370ヘクタールあり、調整区域全体に対する割合として、約17%整備しています。 調整区域での人が住んでいる地域が多いため、事業計画の区域に入れ整備をしています。</p>
<p>その他</p>	<p>なし</p>